

ストップ温暖化センターみやぎ『通信』Vol.36

気候の危機シンポジウム in 宮城 「やっばへんだっちゃ！～気候の危機を考える～」

2004 年から全国各地で開催されてきた気候の危機シンポジウム。宮城では気候の専門家である岩谷忠幸氏（NPO 法人気象キャスターネットワーク事務局長）と江守正多氏（国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長）、そして宮城の生産者として畠山重篤氏（牡蠣の森を慕う会）、佐々木陽悦氏（みちのく田んぼの学校）、鈴木三男氏（東北大学植物園）と豪華なメンバーがそろいました。

専門家からは、気候変動や異常気象の現状とその研究状況などわかりやすい講演があり、宮城の生産者からは実際に現場で感じている異変について話していただきました。

パネルディスカッションでは客席も巻き込んでさまざまな意見が飛び出し、会場全体で気候の危機について議論を深めました。



平成 19 年新規宮城県地球温暖化防止活動推進員 養成研修が始まりました

推進員の地道な普及活動の成果か、世間の意識が高まっているためか、新たな推進員の公募に対して、33 名と例年になくたくさんの応募がありました。

第 1 回目の研修では東北大学大学院教授の花輪公雄氏を招き「地球温暖化の基礎知識」について講演いただき、第 2 回目では推進員の今野勇氏、菊地ひろ子氏、小幡秀樹氏による活動の事例発表

を行いました。独自の活動を展開している推進員の発表は好評で、「活動のイメージがつきやすくなった」「推進員として活動できるようしっかり勉強したい」と良い刺激になったようです。

来春、彼らが推進員として委嘱を受けると宮城の推進員も 100 名近くになり、今後更なる温暖化防止の活発化が期待されます。

環境省鴨下一郎大臣面会

11 月 12 日（月）にストップ温暖化センターみやぎは都道府県のセンターで組織する都道府県センター連絡会の代表幹事として環境省鴨下一郎大臣と面会しました。

意見交換では、京都議定書の第 1 約束期間を前に一村一品事業による全国での盛り上がりや、センターの役割、地球温暖化防止活動推進員の活動を紹介しました。大臣は特に、推進員の草の根的な活動に興味を示し、今後この制度が有効に発展するように考えたいと仰っていました。

また地球温暖化対策の推進に関する法律についても、今回の意見交換の内容を踏まえて、センターや推進員の位置づけについて担当官と相談したい

と前向きな話がありました。

この会談で、環境大臣に都道府県センターや推進員の活動について認識を深めていただけたのではないかと思います。

